

医療と介護の連携推進に向けた取組み・活動状況

			取組み	
所 属	委員	出欠	令和元年度	令和2年度以降の計画等
雲南市	医療担当	健康福祉部 次長 狩野 明芳	○ ・多職種連携ネットワーク研修会 8/25 高齢期の歯科口腔ケアをテーマに開催 歯科医師、介護職員、薬局薬剤師等 5 5 名が参加 雲南市多職種連携ネットワーク研修会 11/30 医療と介護の良好な関係性の構築とサービスの質の向上をテーマに開催 医師、病院職員、介護職員、薬局薬剤師等 8 9 名が参加	実施内容は検討中であるが、「令和元年度」と同様に多職種間の理解・連携が促進される研修を計画する。
	介護担当	保健医療介護連携室 室長 小砂 祐子	○ ①地域ケア会議の開催 自立支援型ケア会議・・・月1回 日常生活圏域型ケア会議・・・年4回 市域ケア会議・・・年1回 ②認知症地域支援推進員及び認知症初期集中支援チームによる医療・介護関係者と連携した相談支援の実施 ③地域リハビリテーション活動支援事業の活用を通じ、医療系専門職による当事者・介護者・介護支援専門員等への支援を実施・・・随時 ④後期高齢者歯科口腔健診を活用し、介護支援専門員等に歯科との連携促進の意識付けを実施 ⑤「在宅医療・介護連携支援センター」による相談対応、医療・介護の連携調整	①～⑤の継続実施 生活習慣病の重症化防止を目的とした医療・介護関係者との課題共有（地域ケア会議等の活用による） 健康づくりと介護予防の一体的取り組みに向けた検討
奥出雲町	医療担当	健康福祉課 課長 杠 康彦	○ 奥出雲介護老人保健施設の老朽化に伴い、町内関係機関による「老健あり方検討会」を設置し、検討を進めている。老健だけでなく、医療介護連携や町の方向性など幅広く意見交換し、共通認識を持つことができた。	会議は、R元年度限りだが、引き続き老健の具体的対応と並行して、関係者間で医療と介護が密接に連携できるシステム構築に取り組んでいく。
	介護担当	健康福祉課 調整監 稲田 やよい	○ 「医療と介護の資源マップ」 地域ケア多職種連携会議 「入院時の多職種連携を考える」をテーマに研修・意見交換・ワークショップを実施 奥出雲町と安来市における在宅医療・介護の意見交換会 介護支援専門員と医師の情報共有方法の一覧表作成	同左
飯南町	医療担当	保健福祉課 課長 小玉 千恵		別紙のとおり
	介護担当	保健福祉課 理学療法士 嘉田 将典		別紙のとおり
雲南市立病院	院長 西 英明	○		
町立奥出雲病院	院長 鈴木 賢二	○	町が主催する地域ケア会議で関係機関との情報交換・意見交換を行い、交流を深め連携に努めている	町の「地域包括ケアシステム」の取組みが具体化され、さらに連携が図られる計画である。
飯南町立飯南病院	院長 角田 耕紀	○	遠距離介護に関する研修会 ACPに関する研修会 多職種連携研修会 地域ケア会議の実施 その他各種研修会の開催（感染症対策など）	同左
平成記念病院	院長 陶山 紳一朗	○	雲南圏域医療介護連携調整検討委員会への参画 当院地域連携室長が併設老健のカンファレンスに参加し、老健のケアマネ・支援相談員と連携した入退所支援 ・関連特養での認知症予防プログラム「コグニサイズ」教室の開催 ・関連特養にて職員対象の人工透析に関する勉強会を開催し、透析患者を特養にて受入れ	同左
奥出雲コスモ病院	院長 今岡 健次	×	外来受診時、状態により包括支援センターや介護事業所へ連絡。医療と介護の両面で関わり、支援するようにした。支援会議への参加をした。 退院時、介護関係者と一緒に退院後の支援、社会資源の利用について協議 医療介護連携調整検討委員会や研修会への参加 介護施設往診時、ミニ症例検討を実施	同左
雲南医師会	医師会長 永瀬 英雄	○	雲南在宅医療意見交換会（雲南市内開業医による）を開催 今年度は、薬剤師、ケアマネとの交流を図った	
雲南歯科医師会	代表 井上 幹夫	○		
島根県薬剤師会雲南支部	支部長 筒井 幸雄	○	2月26日 介護支援専門員と薬剤師の連携のための研修会 未定 多職種交流会（雲南カフェ）	同左
雲南広域連合	事務局次長 安部 敏弘	○	発表のとおり	
雲南地域介護サービス事業管理者連絡会	副会長 景山 知充	×		
島根県老人保健施設協会	事務局長 福田 武志	○		
雲南地域介護支援専門員協会	会長 本間 加織	○		
島根県訪問看護ステーション協会雲南支部	部会長 安達 弓恵	○	居宅部会研修会「医療と介護の連携」講師 居宅部会・居宅協会合同研修会「訪問の実際と連携」講師 雲南地域介護事業所連絡会へ参加し情報共有 介護支援専門員研修の講師・ファシリテーター（更新研修・主任ケアマネ研修・専門研修課程） 訪問看護ステーション部会研修会多職種連携「ごちゃまぜカンファレンス」	計画は立っていませんが、積極的に連携ができるようにしていきたい
看護協会雲南支部	支部長 白石 淳子	×		
保険者協議会 健康保険組合連合会島根連合会	常務理事 乙社 修司	○		
保険者協議会 島根県国保連合会	事務局次長 青木 光男	○	令和2年度から後期高齢者医療広域連合及び市町村において開始される『高齢者の保険事業と介護予防の一体的実施』にかかる支援として、研修会を開催（3/19予定）	引き続き支援を実施 ・研修会の開催 ・取り組み事例の横展開 ・国保データベース（KDB）システムの利活用の推進 等

令和元年度 飯南町介護予防事業/介護予防・日常生活支援総合事業

事業		内容	実施状況
介護予防 事業	72歳塾	平成22年度より開催している。年度内に72歳になる方に対して、介護予防の普及啓発を行う。	対象:106名。 3月開催予定。12月から実行委員会を開催し、対象者代表の方と内容等相談する。
	介護予防普及啓発事業 (高齢者等に対して広く介護予防の普及啓発を行う。)	平成24年度より開催している。短期集中型のプログラムとして飯南町では開催している。	高齢期の公共交通の利用は飯南町の大きな課題である。その背景には、バスの乗り方が分からないことも一つの要因と してある。今年度は、公共交通にテーマを絞り、関連部署と連携して公共交通利用について学ぶ機会を短期集中型介護 予防事業として行った。8月～10月にかけて座学編と実践編に分けて開催し、延べ28人の方に参加いただいた。参加者 年齢も50代～90代と幅広く、参加いただいた。このセミナーを機に医療機関受診をパスでされるケースもあり、地域課題 に沿った内容となった。参加者から、「具体的な乗り方を知ることができてよかった」という声を多数いただいた。
	飯南町まめな塾 同窓会	平成25年度より飯南町まめな塾修了生を対象に開催している。	対象:平成24年度～平成30年度(平成29年度は実施なし)までの修了者延べ224名中、死亡・要介護認定者・転出を 除いた164名。 「お菓子作り体験」「交流会(領原)」「交流会(赤来)」「森林セラピー」という4つのメニューで案内。天候の関係で「森林セ ラピー」は中止となったが、他3つのメニューへ合計47名の参加があった。参加者からの満足度は高かった。事業への 参加をきっかけにして、新たな相談につながったケースもあつたり、同じ地区同士あるいは地区を越えて修了者同士の つながりの機会となった。
地域介護予防活動 支援事業 (地域の主に「通いの 場」の充実に向けた支 援を行う。)	平成28年度より、普及啓発を 行っている。先進地での取り 組みを参考にしている。60分 間の体操で週1回の実施を基 本としている。3人以上を1グ ループとして支援している。	4/1現在、49箇所・583名参加。 国の基準10%に対して約26%の参加率。体操を一部変更。口腔・栄養の啓発を強化したパネルを作成し、全地区パネ ル交換をしている。継続支援として、担当地区保健師と包括職員、専門職(歯科衛生士、栄養士、理学療法士のうち1名)で 各会場に出かけ、評価と情報提供を実施している。また、グループリーダー会を開催し、3月には参加者を対象に研修会 を開催する。 3年間の介護保険給付費比較において、一定の費用抑制の効果が示唆された。	
地域リハビリテーション活動支援事業 (「心身機能」「活動」「参加」のそれぞれの要 素に働きかけるために地域におけるリハ職 の活用を行う。)	介護予防事業等への専門職 派遣	飯南町長生き体操・飯南町まめな塾・72歳塾等への専門職派遣を飯南病院より受けている。各地区体操会場で口腔・栄 養・運動の専門職が保健師等と一緒に訪問してフットアロップと同時に身体機能測定を行い、その場で結果をお返し た。	
介護予防・生活支援サービス事業	65歳以上の方々を対象に、総 合事業として、要支援1・2に 認定された方や生活機能の 低下がみられる方が事業対象 者として認定されると利用でき る。	保険者である雲南広域連合の示す基準のもと介護予防・生活支援サービス事業を進める。町内事業所の中で基準相当 サービスとして、通所型サービス3箇所(飯南町社会福祉協議会 通所介護事業所・領原デイサービスセンター・デイサー ビスセンターまごのて)、訪問型サービス(飯南町社会福祉協議会 訪問介護事業所)が利用可能。基準緩和型サービス として、通所型サービス2箇所(ふきのとうサロン:株式会社あゆみ・にじいろ:領原デイサービスセンター)が利用できる。	

令和1年度 飯南町在宅医療・介護連携推進事業

事業項目		自治体の取り組み内容	実施状況
(ア)	地域の医療・介護の資源の把握	① 地域の医療機関、介護事業所の機能等を情報収集 ② 情報を整理しリストやマップ等必要な媒体を選択して共有・活用	○飯南町福祉マップの活用 ◆ 関係施設も掲載しているほか、包括支援センターが、様々な相談に応じ連携、支援していることをわかりやすく掲載。相談に来られた方に配布している。 ○飯南町で利用できる介護保険内・外サービス一覧の活用 ◆ 社協と連携し、情報把握に努めるとともに相談時には情報提供を行っている。
(イ)	在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	① 地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握・共有し、課題の抽出、対応策を検討	○自立支援及び適正給付に向けた事例検討会を開催(月1回) ◆ 個別ケースからの問題抽出地域課題を行い、施策へとつなげていけるよう努力している。免許返納・交通・認知症介護問題等。 ○高齢者サービス調整会議(月1回)開催 ◆ 飯南町内の医療介護のサービス状況把握、共有を行っている。医療や介護施設等の中から課題抽出施策へつなげるよう努力している。地域包括ケア推進局会議。
(ウ)	切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進	① 地域の医療・介護関係者の協力を得て、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進	○地域ケアシステムの連携・強化 ◆ 各会議を通じ、日頃から顔の見える関係づくり連携体制の強化を行っている。 ◆ 利用者の状態に応じ、どのようなサービス提供が可能か、生活の場としてどのような選択肢があるのか、切れ目のない支援ができるよう各関係機関連携している。
(エ)	医療・介護関係者の情報共有の支援	① 情報シート、地域連携バス等の活用により、医療・介護関係者の情報共有を支援 ② 在宅での看取り、急変時の情報共有にも活用	○「医療・介護連携シート」の活用 ◆ 共通連携シートで情報共有ができることにより、医療介護の連携がよりスムーズになる。(令和元年更新) ○「入院連携マニュアル」の活用 ◆ マニュアルの周知により共通認識ができ、入院時、退院時にスムーズな連携へつながり、住民の安心感につながる。
(オ)	在宅医療・介護関係者に関する相談支援	① 医療・介護関係者の連携支援するコーディネーターの配置による在宅医療・介護連携に関する相談窓口の設置・運営により運営の取り組みを支援	○地域包括支援センターに窓口を設置 ◆ 医療、介護、居宅等の各施設等の相談に早期対応を行い、必要なサービスへ繋いでいる。 ○各施設運営推進会議に参加 ◆ (愛寿園・あかぎの里・あゆみ・庵・ブナの木・まごのて・まんてんの家・頓原デイサービスセンター) ○入所検討委員会への参加 ◆ (あかぎの里・愛寿園)

(カ)	医療・介護関係者の研修	<p>① 地域の医療・介護関係者がグループワーク等を通じ、多職種連携の実際を習得</p> <p>② 介護職を対象とした医療関連の研修会を開催等</p>	<p>○飯南町地域ケアフォーラム(11/30 実施予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域包括ケア推進局が中心となり、飯南町、京丹後市の各病院、介護施設、行政等が取り組み、事例発表を行い、良い学びの場となっている。今年度保健・医療・福祉に従事する方の研修「人生会議(AOP)」への取り組みを多職種によって支援する手法を学びます。 <p>○福祉部会研修(年3-4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 事業所の垣根を越えた研修の場は町内介護職員同士の顔の見える関係づくりやスキルアップに役立っている。(懇親会も年1回開催) 第1回 7/23 福祉施設における防犯対策 第2回 11/30 ケアフォーラム <p>○「在宅医療・介護連携」にかかる雲南圏域多職合同研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 今年度は各市町村別を企画 2月に実施予定(事業所紹介・多職種ロールプレイ研修を予定)
(キ)	地域住民への普及啓発	<p>① 地域住民を対象としたシンポジウム等の開催</p> <p>② パンフレット、チラシ、区報、HP等を活用した、在宅医療・介護サービスに関する普及啓発</p> <p>③ 在宅での看取りについての講演会の開催等</p>	<p>○「飯南町遠距離介護支援セミナー」の開催(8月12日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 今年度は飯南町独自で病院、社協、行政が連携し開催。(昨年はモデル事業)飯南町内のサービースに合わせた内容とした。1部は昨年の参加者向けスナップアップした内容2部は新規者と親世代の方にも参加していただき、昨年同様の内容で行った。 ◆ 参加者は少なかったが、それぞれに満足感が得られた感想だったが遠距離介護を取り巻く課題は空き家、相続など、多くありいろいろな面での連携も必要。 <p>○「いーにやん健康まつり 10/5」に開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 健康を切り口に住民が楽しく学べる、同時に医療、介護、福祉に関する発信も行える場として継続していきたい <p>○エンディングノート「いきいきと生きて逝くために」購入 看取りについて サロン出前講座を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 角井公民館 南天カフェ 谷地区で開催
(ク)	在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	<p>① 同一の二次医療圏内にある市町村や隣接する市町村等が連携して広域連携が必要な事項について検討</p>	<p>○雲南圏域医療介護連携調整検討会議(H28～)への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 雲南保健所が中心となり、雲南広域連合、1市2町村の病院、介護支援専門員、介護事業所、訪問看護ステーション、市町等関係機関が参加している。医療介護連携の必要性について共通理解をすること。顔の見える関係づくりの構築ができていく。 <p>○雲南圏域がん医療・緩和ケアネットワーク会議連絡会への参加(9月4日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ネットワーク構築に関する課題として雲南圏域にがん診療拠点病院がないため連携の充実が必要。圏域でできることの強みを強化していく。